

膜シンポジウム2014 顛末

山口大学大学院 比嘉 充

2014年11月26日(水)～27日(木)の2日間、神戸大学百年記念館にて、膜シンポジウム2014が開催されました。本シンポジウムにおける発表件数は招待講演1件、口頭発表32件、ポスター発表56件の合計88件、参加者は179名と、例年にも増して盛況のうちに終わることが出来ました。改めましてご発表を頂きました方々、ご参加頂きました方々に厚く御礼申し上げます。

さて今回の膜シンポジウムは「膜科学と膜工学の現在・過去・未来」というテーマで開催致しました。招待講演としてメガトン水システムの中心研究者であり、東レフェローの栗原 優氏をお招き致しました。「Mega-ton Water Systemの成果と今後の展望」と題したご講演であり、メガトンプロジェクトにおいて開発した、設備及び運転コストを大幅に低減し、かつ地球環境の負担も抑えた国際競争力のある水処理システムにおける要素技術の内容と今後の展開についてご説明頂きました。また同時に「深は新なり」「温故知新」の言葉を通して研究者としての信念の大切さを熱く語って頂き、参加者、特に若い研究者の心に深く残るご講演でした。

一般発表は例年と同様に12分の発表と、8分の質疑応答で行い、活発な討論が行われました。また詳細は別記に委ねますが、例年に引き続き、ポスター発表も実施致しました。今年初めての試みとして1分間のショートプレゼンテーションをポスター発表者全員が行いました。慣れない方もおられましたが、皆さんが非常に真剣に自分の研究を説明し、参加者全員が生体膜・人工膜の研究全体を俯瞰する良い機会になったのではないかと思います。

懇親会は神戸大学瀧川記念学术交流会館で行われ、76名のご参加を頂きました。幸いにして朝からの雨も上がり、百年記念館からの神戸の街並みを眺めながら音楽の街、神戸にふさわしいフルートとクラリネットの音色の中で、懇親を深めることが出来ました。

今回のシンポジウムでは副運営委員長を松山秀人先生(神戸大)にお願いし、ポスター審査を高木良助先生(神戸大)、吉川正和先生(京都工繊大)、会場担当を蔵岡孝治先生(神戸大)、神尾英治先生(神戸大)、安川政宏先生(神戸大)、プログラムと要旨を通阪栄一先生(山口大)、ショートプレゼンテーションを遠藤宣隆先生(山口大)、鈴木祐麻先生(山口大)、そして受付と懇親会を垣花百合子先生(神戸大)に運営委員としてご尽力頂きました。また進藤清子様をはじめ、神戸大学工学振興会(KTC)には会場設営、受付、懇親会など大変お世話になりました。この場をお借りして運営委員の先生方、KTCの皆様へ感謝申し上げます。

次回の年会(早稲田大学)および膜シンポジウム(神戸大学)で再び皆様にお目にかかれることを楽しみにして、今回のシンポジウムのご報告とさせていただきます。



栗原 優氏講演



学生賞発表
高木先生



ポスター発表



懇親会 会長挨拶
都留先生



懇親会 運営委員長
挨拶 比嘉先生



懇親会乾杯
中尾先生



懇親会の様子



懇親会 次期年会
運営委員長挨拶
斎藤先生



懇親会 次期
シンポジウム
委員長挨拶 松山先生

写真提供：神戸大学 垣花百合子先生